



平成29年、農福連携で最高品質の苺をつくることを目指し、遊士屋（株）を設立。ウェルビーイング（肉体的、精神的、そして社会的にも、すべてが満たされた状態）な「生き直し」を支援する福祉施設と連携し、雇用創出・農業カリキュラムの場として確立させるとともに、著名ブランドなどで採用される苺を生産している。

基本情報

- 所在地：三重県伊賀市（伊賀農園）
- 団体名：遊士屋株式会社
- 取組パターン：連携型
- 主力商品：苺

完熟クラフト苺 BERRY
(自社ブランド)



取組の概要

- 連携するワンネス財団が運営するグループホームなどの施設を卒業した者（知的障害、発達障害、各種依存症、引きこもりなどによる生きづらさから回復した者）を一般就労の形で雇用。
- ワンネス財団は福祉カリキュラムとして当農園での作業を採用。週平均20名ほどの方々が当農園での作業を通し、他者と関わり合いながら自身の抱える障害や生き直しとして向き合っている。
- 直販と輸出に注力した品質特化の栽培戦略を採用。自社ブランドとして「完熟クラフト苺BERRY」を立ち上げる。農園から個人宅への直送を行う他、著名ブランド・国内外のトップシェフらから採用。



集中して苺の栽培を行う



ハケを使用して丁寧に選果



多様な年齢・背景を持つメンバーが働く

体制図



取組の成果

- お客様の声が直接届くことや、ミシュラン掲載店などで採用されることが本人（障がい者等）たちの生き甲斐に繋がっている。
- 独自流通を前提とするため、リードタイムが短く、完熟の苺の出荷など独自性を出すことで収益の安定と雇用増、生産や再投資につながる。
- 2020～2021年は、自社サイト経由だけで1,800件を超えるお客様へ苺をお届けすることができた。また、デジタル販売の活用が注目されGoogle社のテレビ広告に採用された。

所在地 ▶ 三重県伊賀市法花3605

連絡先 ▶ TEL：080-1618-5059

E-Mail：info@berryjapan.com

ウェブサイト ▶ <https://berryjapan.com>

【取組のプロセス】

強みを活かせるよう作業分野を分担。それぞれに責任範囲を持つような作業設計を行う。

福利厚生として、スタッフの心身の健康のため手作りの食事を振る舞ったところ、チームの結束も高まった。

個人向け直販、プロ向け直販、輸出等、売上を分散したことで、コロナ禍でも経営資源を最適に分配する体制が構築できた。

家族を畑に招いたり、母の日に会社経費で各自の母親へ苺を贈るなど家族とのコミュニケーションを大切にしている。

作付け面積5,500㎡、育苗施設などで15,000㎡を活用。これら全て地域の荒廃農地、遊休農地を有効利用。

2017年～

きっかけ

様々な生きづらさによって、一度は人生やキャリアに立ち止まってしまった方が、再び生きがいを持って「生き直すことのできる場」を作りたいという思いから、肉体的、精神的、そして社会的にも、すべてが満たされた状態を目指す農園として遊士屋を設立。

再び生きがいを持って「生き直すことのできる場を作りたい」

- 2017年10月、農福連携の実現を目指し三重県伊賀市の荒廃農地を賃借し、いちごのテスト栽培を開始。
- 農業と福祉を掛け合わせるだけでなく、「世界一だと誇れる仕事をする事」を掲げ、世界中に自分たちの作った苺を届けることを事業の根幹に据えて環境整備、仕組みづくりを行う。



BERRYの苺が
人気パティスリーに採用！

2019年～

自社ブランド「完熟クラフト苺BERRY」を発表

- 2019年12月、高級高品質の自社ブランドとして、「BERRY」を立ち上げ、個人向けのデジタル販売を開始。
- 国内直接販売とタイ・バンコク・シンガポール・台湾・香港などへ贈答品として輸出を開始。
- 英国王室御用達の陶磁器ブランド創設記念キャンペーンやミシュランレストランで採用となる。



BERRY使用のケーキ

2020年～

地域とともにある農園

- 地元在住のスタッフを雇用することで障がい者等への理解を広げ、高齢化集落で土地を借り、若い人材を増やしている。
- 地域と障がい者のコミュニケーションを増やすため、2020年後半から地域イベントへ積極的に出店。
- 地域住民との対話など様々なゲストを招き、交流することで社会性や自己肯定感が育まれている。
- 育苗施設、作付け等を行う農地は地域の荒廃農地や遊休農地を活用。



地球の未来に繋がる技術革新に取り組む

- 農福連携の枠組みにとらわれず、気候変動後の時代を見据え、環境負荷を限りなく減らした持続可能な栽培方法の確立という目標を定めて、当社農園敷地内に研究所を建設し、CULTIVERA社と共同で実証研究を開始。
- より大きなビジョンと課せられた使命が、本人（障がい者等）たちのモチベーションアップへ繋がる。



一人ひとりが主役として働く

今後の
展望